

◎ 調査研究助成 《個人研究》

研究課題	研究者	研究者所属	助成金(千円)
チベットにおけるインド仏教の伝播と受容 —アティシャの活動を中心に—	PAK HEE EON	筑波大学大学院 博士後期課程	100
中華人民共和国成立初期における外国人管理と外交 ：その実態、変遷と意義	景 旻	東京大学大学院総合文化研究科 国際社会科学専攻博士課程	750
「海賊」をめぐる17世紀の地中海 ：オスマン朝—ヴェネツィア間の海上秩序	末森 晴賀	北海道大学大学院 文学研究科博士課程	550
インドネシア農村女性の伝統的薬草療法利用と ウェルビーイングに関連する人類学的研究	杉野 好美	京都大学大学院 アジア・アフリカ地域研究研究科 博士後期課程	870
近現代の中国ムスリムにおける共同体意識の構築 ：「ウンマ」概念に対する理解から	何 家歆	京都大学大学院 アジアアフリカ地域研究研究科	500
稲作経営間での生産要素の相互利用による生産力強化の可能性 —タイ国における稲作農家の組織化政策を事例に—	遠山 裕基	鳥取大学大学院 連合農学研究科 博士後期課程 1年	500
軍事基地の近隣を生きる ：マーシャル諸島共和国イバイ島における都市形成の歴史人類学的研究	大竹 碧	京都大学大学院 人間・環境学研究科 博士後期課程	700
無形文化の複層的資源化 —タイ北部リスの舞踊にみる持続的開発の戦略	内住 哲生	東京立大学大学院 人文科学研究科 博士後期課程	520
現代イースター島社会におけるラバ・ヌイ文化の尊厳に関する民族誌的研究	内尾 太一	麗澤大学 国際学部 准教授	500
オセアニアにおけるアオウミガメの保全・保護と伝統的利用の両立に関する研究	山口 優輔	京都大学大学院 アジア・アフリカ地域研究研究科 博士後期課程 1 回生	1,000
中国青海チベット族慣習法の実践とその変化	彭 毛措	金沢大学 人間社会環境研究科 博士後期課程	1,000
太平洋島嶼国における祭祀儀礼から生活実践までの 身体技法とその継承方法の人類学的研究—フィジー共和国を中心に—	緒方 良子	北九州市立大学大学院 社会システム研究科 地域コミュニティ専攻博士前期課程2年	530
人新世を生きる現代メラネシアの人々 ：熱帯雨林伐採と現地での自然認識の交点から考える	橋爪 太作	早稲田大学 人間科学部 助手	450

◎ 調査研究助成 《共同研究》

企画名	研究者	研究者所属	助成金(千円)
東アジアにおける米軍基地の運河・周辺都市形成に関する学際的研究	成田 千尋	立命館大学 衣笠総合研究機構 専門研究員	1,500

◎ 国際学術交流助成

企画名	研究者	研究者所属	助成金(千円)
国際会議「Sects and Sectarianism in Chinese Islam」	海野 典子	早稲田大学 高等研究所 講師	2,000
第15回 国際考古動物学会 南西アジア分科会の開催 「家畜と牧畜文化の東ユーラシア・東南アジアへの伝播と受容過程」 (The 15th ASWA, Tokyo- Archaeozoology of Southwest Asia and Adjacent Areas : Spread of animal husbandry to Eastern Eurasia and Southeast Asia)	本郷 一美	総合研究大学院大学 先端科学研究科 准教授	1,900

◎ 出版助成

出版内容	研究者	研究者所属	助成金(千円)
「出入国管理の社会史：戦後日本の「境界」管理のはざま」の出版	李 英美	一橋大学大学院 社会学研究科 科研費フェロー	1,200
中国黄海島嶼漁民の人類学	緒方 宏海	香川大学 経済学部 准教授	1,200
『カンボジア「クルー・チャタン」の時代 —ポル・ポト時代後の初等教育—』の出版	千田 沙也加	京都大学 東南アジア地域研究研究所 日本学術振興会特別研究員 (PD)	1,200
近代中国の国家主義（ナショナリズム）と軍国主義（ミタリズム）	小野寺 史郎	京都大学大学院 人間・環境学研究科 准教授	1,200
ラオス山地民とラム歌謡 ：内戦を生き抜いた宗教・芸能実践の民族誌	平田 晶子	東洋大学アジア文化研究所	1,200
『『日本占領期上海の文学とメディア』の出版』	山口 早苗	東京大学大学院 総合文化研究科 学術研究員	1,200

出版助成 合計 6件 7,200千円

# 2023年度 アジア・オセアニア研究助成

## 調査研究/国際学術交流/出版

### 応募要項

当財団は、アジア・オセアニア諸国の人々との国際交流活動を通して相互理解と発展に繋げ、ひいては21世紀の世界の安定と繁栄に寄与する目的で設立されました。21世紀に入り世界は一段と経済発展を遂げましたが、その陰で深刻な社会分断が進み、直近は気候変動、感染症蔓延、武力侵攻など社会の根底を覆す事態に直面し、残念ながら国際社会は非常事態に陥っています。

このような国際社会の情勢を鑑みると、アジア・オセアニア地域研究の重要性は今まで以上に高まっていると考えます。財団は、アジア・オセアニア研究者を数多く育てることを目指し、設立当初より30年以上に亘りこの助成を続けています。いまコロナで厳しい研究環境ですが、別の意味でこの貴重な時期を糧にする強さを身に付けて欲しいと願っています。可能な限り臨機応変に支援いたします。研究内容では、従来研究の延長線上ではなく、新たな考え方、手法、他領域の研究アプローチを加えたりして、人々を「共鳴させる」研究をしていただきたいと思います。「りそな」はラテン語で「共鳴する」という意味があります。人々の共鳴を得ることができれば、今のような事態に陥らないのではと思うのです。コロナなど直近の事象から出てきた新たな題材へも、積極的にチャレンジいただきたいと思います。

財団設立の趣旨からも、当事業の意義は益々深まったと考えます。日本は人口減少が進み、アジア・オセアニア地域の人々と支え合って暮らしていかなければなりません。しかしながら日本のダイバシティに対する評価は極めて低い結果が出ており、その課題を克服していく必要があります。皆さんの研究が広がることで、日本のダイバシティが進み、世界の安全・平和に繋がっていくことを望んでいます。

### 応募期間

2022年5月16日～2022年7月29日(必着)

【助成事業（1990年～2022年）通算助成実績】

助成件数 572件  
助成者数 381名  
助成金額 620百万円



公益財団法人  
りそなアジア・オセアニア財団

RESONA

